

第22回 海岸クリーンアップ ボランティア活動報告

229名の方が参加

22回目となった海岸クリーンアップは、9月1日(土)が鷹巣海水浴場で、9月8日(土)が三国サンセットビーチで行われました。両日とも雨が心配されましたが、当日の開始時刻から清掃中だけ雨がやむという幸運にめぐまれ、実施することができました。

天候が悪い中、両会場合わせて229名の方がご参加くださいました。

いつ天気が変わるかハラハラしながらも、熱心に清掃に取り組んでいただいたおかげで、夏の間たくさんの方が楽しい思い出を作った海岸は、美しさを取り戻し、終わったときには静かに波が打ち寄せていました。

今年度も海岸クリーンアップにご協力いただき、ありがとうございました。ボランティアの輪をつなげ、よりよい地域社会作りに貢献できるよう、これからも活動してまいります。

9月1日(土)

鷹巣会場

参加者 171名

燃えるごみ 約24袋
燃えないごみ 約15袋

9月8日(土)

三国会場

参加者 58名

燃えるごみ 約48袋
燃えないごみ 約10袋



「安心してらせる地域づくりをめざして
～誰一人取り残さない社会の実現に向けて～」をテーマに

第30回 近畿地区 生協・行政合同会議 報告

月日 8月29日(水)

会場 大津市 琵琶湖ホテル 3階「瑠璃」

近畿地区7府県(兵庫・大阪・京都・和歌山・奈良・滋賀・福井)で構成している近畿地区生協府県連協議会では、厚生労働省および各府県行政との懇談会を毎年開催しています。

特別報告では関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科 藤井博志教授より、『地域をまるごとささえあう みんなの居場所と



は～「地域共同ケア」のススメ」をテーマにお話いただきました。

行政や事業者と協働して、住民が暮らしを支える機能として望む地域福祉の拠点を作り上げるための要点と、具体的な事例についてお話いただきました。また、「ケア」の開発とまちづくりを同時にすすめる「地域共同ケア」の実践において、生協の果たす役割への期待を述べられました。

他に、4本の活動報告が行政や生協からあり、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、生協と行政の協力関係を深めることが有効であることを再確認できました。

(1) 地域福祉の目標

誰もが、住みなれた場でその人らしく、暮らせる地域社会の仕組みを、みんなで作る。

(2) 日常生活圏とは

- ① 子どもや障害のある人、高齢者が多く時間を過ごしている場
- ② 住民が問題発見と問題解決する場
- ③ 住民が支え支えられるというおたがいさまの関係を作る場
- ④ 行政・専門職と住民が共同する場

(3) 住民が望む地域福祉拠点

- ① いつ行っても誰かと交流できる(交流)
- ② 生活の悩み事を何でも聞いてくれる(総合相談)
- ③ 緊急の場合や介護など困ったときに駆け込める(緊急対応・ケアと生活支援)

(4) 地域共同ケアの考え方

定義…分かち合う関係性が求められる地域において、家族、専門職、行政までのあらゆる関係者が参加し、要介護(高齢)者本人を主体とした地域での暮らしを共同でつくり上げる実践。「事業者・専門職への丸投げ」または「制度内での利用者の丸抱え」からの脱却。



▲特別講演講師 藤井博志氏

3.11 を忘れない

～地域再生に向けて～

縁をつないでいく南三陸町の商店街

2012年に仮設商店街として営業を始め、昨年、場所を移転し本設商店街として新たなスタートを切った南三陸さんさん商店街(志津川地区)。オープンから1年5か月目の2018年8月、来場者が100



万人を突破しました。本設移転の前に抱えていた様々な不安をかき消すかのように、商店街には晴れやかな気分が広がっています。

㈱南三陸まちづくり未来(以下まちづくり未来)の菊地真人常務は、「たくさんのメディアが取材に来て伝えてくれた。さらに震災直後から支援してくださっていた方々が友人や親せきを連れて来たり、中高生が体験学習で訪れたり、旅行会社が商店街に立ち寄るツアーを企画したり、多くの縁のおかげで、短い期間で100万人もお客様をお迎えできた」と話します。

ハマレ歌津(歌津地区)も、復興支援で来ていた人たちが引き続き観光で訪れています。現在道路工事のためアクセスが分かりにくくなっていますが、まちづくり未来では看板を設置して商店街への誘導を図ろうと考えています。

海・山・里の豊かな自然に恵まれた南三陸町は、震災前から観光交流に力を入れていました。震災以降は、商店街が町のメイン施設として観光交流をけん引しています。人口減少が課題となっているなか、交流人口の拡大を担う商店街には大きな期待が寄せられ

ています。

「さんさん商店街とハマレ歌津の2カ所に寄っていただいたお客様に何か特典を差し上げるなど、色々企画を練っているところです」と菊地さん。ホームページやツイッター、会員向けメールマガジンなどを駆使し、情報を発信しています。またミニコンサートなど、来場者の持ち込み企画イベントが多いのも、2つの商店街の特徴です。それだけに菊地さんはじめ商店街の人たちには「支援していただいた方々やお客様との縁を大切にしていかなければならない」との思いが強くなります。

2、3年後にはさんさん商店街のそばに道の駅ができる予定です。旧防災庁舎を含む復興祈念公園の開園も控えています。「新しい施設ができることで人の流れも変わらぬでしょう。その時、さんさん商店街とハマレ歌津はどういう役割を担うべきか、色々提案をしようと考えています」と菊地さんは言います。

震災時の困難を大勢の人々と縁をつなぐことで乗り越えてきた南三陸町の商店街。これからも縁を大切にしながら、変化する町と時代に対応していこうとしています。



第60回 福井県労働者共済生活協同組合 通常総代会を開催しました



月日

2018年7月30日(月)

13:30～

会場

ユニオンプラザ福井 3階大ホール

「第60回福井県労働者共済生活協同組合通常総代会」が7月30日(月)にユニオンプラザ福井で開催され、すべての議案が承認されました。2017年度(2018年5月31日時点)の事業状況は以下のとおりです。

1.事業概況 ※総合(慶弔)共済事業	2.組合員数および組合員 出資金額
(1)加入状況 35,176件 248,246口	(1)組合員数 93,515人
(2)給付状況 1,932件 26,375,500円	(2)出資金額 615,245,500円

通常総代会終了後、「全労済福井推進本部第1回組合員代表者会議」が開催され、2017年度活動報告および2018年度活動計画などの全議案が承認されました。

2018年度事業推進活動の基本方針として、2017年度から基本軸の変更はおこなわず、協力団体および共済代理店への「お役立ち」の向上と組合員への「安心」と「満足」の提供をはかるために、「共創活動」を設定しこれまで以上に協力団体・共済代理店と一体となった推進活動に取り組んでいきます。

また、情報提供活動として、防災・減災や健康増進・交通安全の啓発活動、および組合員むけセミナー・イベントを通じたお役立ち情報の発信をおこなってまいります。

◆台風による被災者対応報告

福井県内では、8月下旬から9月上旬の台風20号・21号によって、多くの住宅被害が発生しました。被害にあわれた方々へ心よりお見舞い申し上げます。

福井労済の組合員においても多くの被災受付があり、1日でも早く被災された組合員へ共済金をお支払いできるように、被災者対応をおこなっています。

福井県内の台風による被災対応状況(2018年10月24日時点)
【被災受付件数】 1,102件
【お支払い共済金額】 1億2,651万円余り